

びわこ成蹊スポーツ大学の インターンシップ実習の事例発表

松岡 宏 高

びわこ成蹊スポーツ大学 助教授



要 約

びわこ成蹊スポーツ大学は、わが国で初めて「スポーツ」を冠した大学として2003年4月に開学した。「わが国の閉鎖的な体育指向から脱皮した、国際的に通用する新しいスポーツ文化の創造」を理念に掲げ、スポーツの発展に貢献する人材の育成に取り組み始めた。1学部2学科6コース体制で、スポーツ学部には生涯スポーツ学科と競技スポーツ学科が設置されている。生涯スポーツ学科は野外スポーツ、地域スポーツ、学校スポーツの3コース、競技スポーツ学科はトレーニング・健康、コーチング・技術、マネジメント・情報の3コースで構成されている。そして2007年4月からは、1学年180名の定員を270名に増員し、競技スポーツ学科にスポーツ情報戦略コースを新設する。また、マネジメント・情報コースをスポーツビジネスコースに改名し、さらに専門性の高い教育の提供に取り組み始める。スポーツに関する高度な専門知識と実践的な技能を備えたスポーツ職業人の育成をめざす本学では、教育方針に「実習重視の教育方法」を掲げている。3年次から所属するコースには、1単位の専門実習を各コースに2科目以上開設し、実践的教育を行っている。さらに、インターンシップ実習を全学生に必修として、3年次に実施している。インターンシップ実習は、事前研修、現場実習、そして事後研修に分けて行われている。事前研修は3年次前期にスポーツ現場の現状や社会人のマナーなどについて学ぶ機会を設け、事後研修は後期に実習報告会などを各ゼミで行っている。現場での実習に関しては、原則として2週間(80時間程度)の実習を夏季休暇を利用して実施している。実習機関については、まずは学生自身が所属コースの専門性に適したスポーツ組織を探索し、指導教員と相談のうえ決定する。2005年度に実施した学生の実習機関は、「サービス業」と「教育、学習関連」が最も多く、それぞれ全体の38.8%を占めた。次いで、「医療・福祉関連」が10.2%、「製造業」が3.9%で、そのほかには「卸売、小売業」、「地方公共団体」、「情報・通信業」が実習先として選択された。2005年度に実習を行った学生を対象にアンケート調査を実施したところ、多くの学生が実習の成果を実感していることがわかった。94%の学生が「実習に参加したことで職業選択の参考になった」と、そして93%の学生が「実習が学習意欲の向上に役立った」と答えている。また、80%の学生が「大学で学んだ知識・技術などが役に立った」と回答しており、大学内での基礎的な学習が、実践的なインターンシップ実習に結びついている点は評価できる。

開学から4年目の本学では、ようやく1期生が卒業するが、大きな課題はスポーツの専門的知識と実践力が活かせる現場へどれだけの学生を送り込めるかであろう。学内での基礎的教育から、実践的なインターンシップ実習への流れが、スポーツ現場への就職に結びつくような教育体制の整備、およびジョブマーケットの開拓が求められる。